Annual Bulletin of Institute of Psychological Studies,
Showa Women's University, 2021, Vol. 23, 33-42.

論　文

男性保育者の印象と女児の着替えに対する賛否
― 大学生を対象とした予備的研究 ―

渡邊　寛

Preliminary study of university students' impressions about male childcare workers and opinions about them helping girls change clothes

Yutaka WATANABE

There are various opinions about male childcare workers helping girls change clothes. This study examined university students' impressions regarding male childcare workers and opinions about their task of helping girls change clothes. The results showed that those who had experienced contact with male childcare workers and upheld the "sanctification of motherly love" had positive impressions about male childcare workers and supported their task of helping girls change clothes. They argued that this task should be viewed as a job and a profession. On the other hand, those who upheld the "justification of child-rearing by women" had negative impressions about male childcare workers and, thus, were opposed to them helping girls change clothes. They were of the opinion that this was a sexual matter because it involved physical contact. Based on these opinions, the possibility of men rendering childcare was discussed.

Key words : male childcare workers（男性保育者）, gender（ジェンダー）, stereotypes（ステレオタイプ）, care（ケア）

問題と目的

2017年1月、千葉市の熊谷市長が「市立保育所男性保育士活躍推進プラン」の作成に関連して、「娘の着替えを男性保育士にさせないでという親の声があった」とツイッターで発信した（毎日新聞, 2017）。この発信に対して、ツイッターなどでは様々な意見が寄せられた。毎日新聞（2017）によると、「男性保育士がいる保育園で育ててもらったが、いま議論になっているような考えを持ったことはない」などの賛成の意見がみられた一方で、「女の子自身の羞恥心の視点も忘れないでほしい」「男女差別と性的区別を混同している」などの反対の意見もみられた。このような男性保育者が直面する子どもの着替えをめぐる難しさには、男性が行うケアに伴う問題と保育に伴う問題の大きく2点が関わっていると考えられる。本研究はこれらの問題について、男性保育者の印象と女児の着替えに対する賛否から実証的に検討する。

そもそもケアには、他者の生活を支える労働としての側面と、他者への共感や配慮という対人感情の側面がある（Abel, 1990）。加えて、平山（2017）は、Mason（1996）の「感覚的活動（sentient activity）」という概念を踏まえて、他者のニーズをくみ取りタイミングを考慮するなどして、関係を維持するよう調整するマネジメントの側面があると指摘した。こうしたケアを行う男性が直面する問題については、矢原（2007）が3点にまとめている。第1に、ケアに固有の身体接触にかかわるセクシュアリティの問題である。山田（1992）も、男性が行うケアは、特に女性から嫌がられるか好まれないと述べている。第2に、ケアには感情労働（Hochschild, 1982）の側面が強く、「細やかな気づかい」や「他者への共感」といった女性的なイメージが結びついている問題である。第3に、ケアを行う職業は、女性が多数を占める「ピ

ンクカラー・ジョブ」として、ほかの職業に比べて社会的、経済的評価が低い問題である。例えば、保育士の平均賃金は全職種の3分の2程度であり（厚生労働省，2017）、女性が多数を占める職業に参入する男性は、下降のイメージともつながっていると考えられる（矢原，2007）。

これらのケアの難しさを伴う男性保育者がどのように捉えられているかについては、これまで多数の研究が行われてきた。例えば、小林・竹田（2008）では、幼稚園に子どもを預ける母親が活発な男性保育者を期待する一方、乱暴な遊びや細かい配慮の欠如に対して不安を抱いており、こうした不安が男性保育者への相談希望を低めることを明らかにした。また、保育に携わる者を対象とした井上・石川（2008）では、園児や保護者、職員に対する男性保育者の影響を尋ねた。その結果、園児に対しては活発さや兄・父親的な存在、両性が関わることによる好ましい影響が挙げられた一方で、怖い・苦手と感じる子どもがいることや勢いだけの保育になることが好ましくないこととして挙げられた。また保護者には、父親の子育て参加を促進したり母親に人気な一方、女児の保育に抵抗を感じたり、細やかな保育への不安があることが挙げられた。さらに職員には、男性の視点が入ることや刺激が入ることへの肯定的な評価があった一方、女性の職場での順応が難しいこと、恋愛問題が起こること、設備面で不便なことが挙げられた。

このような印象を持たれやすい男性保育者への態度を尺度化した菊池（2002）では、「男性保育者に対する不安」と「男性保育者に対する積極的評価」の2因子が抽出された。女性保育者、保護者、学生の差を検討した結果、男性保育者の積極性については、学生が最も高く評価し、女性保育者が最も低く評価していた。一方、男性保育者への不安は、男性保育者がいる場合の方がいない場合よりも低く、特に保護者でその差が大きかった。この点については、齋藤（2003）においても、男性保育者がいない園の父母の方が男性保育者に対して否定的であることが確認されている。また、特に男性保育者がいる園の母親は性差を意識せず、保育者の役割は男女ともに同じと考えていた一方、父親は性差を意識する傾向にあった。

以上のような男性保育者の印象に関わる要因が、性別分業意識や三歳児神話といったジェンダーにかかわるステレオタイプである（青野，2009；中田，2003）。心理学研究では、主に女性の社会進出と家事育児への態度を測定する平等主義的性役割態度スケールが頻繁に用いられ、女性の方が男性より平等的な性役割態度を有することが明らかになっている（鈴木，1994）。また、伝統的な価値観に基づいて、子どもの世話をする際に母親が担うべきとされる役割を信じて実践する傾向を「母性愛」信奉傾向という（江上，2005）。平等的な性役割態度および「母性愛」信奉傾向と、男女保育者が異性の子どもの世話をすることへの是非との関連を調べた矢野（2020）では、いずれの尺度とも相関がみられなかった。ただし、「母性愛」信奉傾向は2つの側面に分かれることも明らかになっている（江上，2017）。1つの側面は、性によって固定的に役割を分担する「女性による子育ての正当化」である。もう1つの側面は、愛情を人間の重要な原理とし、（特に母親が）愛情をもって子どもを育てることを重視する「母親の愛情の神聖視」である。これらの2側面は、男性保育者への印象や異性の子どもの世話についての考え方との関連が異なる可能性が考えられる。

加えて、近年「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という伝統的な考え方への賛成が減少し、反対が6割近くになっている（内閣府，2019）。その中で、男性も仕事をして稼ぐことや社会的地位の上昇を求めるだけでなく、家事や子どもの世話をすることが求められるようになっており（渡邊，2017c）、男性の子育てを推進する政策も実施されている（厚生労働省雇用環境・均等局職業生活両立課，2018）。したがって、男性が求められる役割に対する考え方が、男性保育者に対する印象や職務の捉え方に影響している可能性も考えられる。

以上より、男性保育者は、活発さなどの男性的な性質を肯定的に評価される一方、細やかな気づかいなど女性性（伊藤，1978）や共同性（土肥・廣川，2004）とされてきた性質には否定的な印象を持たれると考えられる。こうしたジェンダーにかかわるステレオタイプは、上述の先行研究から、特に女性に比べて男性で、また男性保育者と接した経験がある者に比べて経験がない者で強く、男性保育者に対する否定的な印象につながっている

と考えられる。また、「母性愛」信奉傾向や「男は仕事」といった伝統的な考え方を有する者ほど、女性が多数を占める「ピンクカラー・ジョブ」(矢原, 2007) に携わる男性に対して否定的な印象を持つ一方、男性の家庭参加に肯定的な者は、男性が子どもの世話をすることを当然と考え、男性保育者に対しても肯定的であると予想される。

しかし、これまでの研究では、「母性愛」信奉傾向の2因子や男性の仕事や家庭役割への態度が男性保育者に対する印象にどのように影響するかが実証的に検討されていなかった。また、男性保育者に対する否定的な印象は、男性保育者が女児を着替えさせることへの否定に結びつくことが予想されるが、その点は検討されず、女児の着替えを行うことへの賛否の理由の詳細や、それらと男性保育者の印象との関連についても詳細に検討されたことはなかった。男性保育者の印象や職務の捉え方を詳細に検討することは、男女が共に働きやすい環境を作っていく上で重要であると考えられる。

そこで、本研究では予備的調査として、男女大学生を対象に男性保育者への印象および男性保育者が女児の着替えをすることへの賛否に影響する要因を検討する。加えて、男性保育者の印象と女児の着替えへの賛否の理由の関連を自由記述から探索的に検討する。なお、大学生は子どもを持たない者が多く、保育への考え方を問うには限界もある。しかし、若年層の保育への意識を高め、ジェンダーギャップを解消するような教育を推進するための資料や、今後保護者等を対象とした研究を行った際に比較するための資料を蓄積することは有益であると考えられる。そのため本研究では、大学生を対象にデータを収集し、探索的に検討した結果を報告する。

方　法

本研究は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て行われた（筑29-84）。調査対象、調査内容は以下の通りであった。

調査対象

関東の4年制大学に通う大学生計235名（男性112名、女性121名、不明2名：M＝18.774歳、SD＝0.976）を対象に調査を行った。

調査内容

1．属性として、性別と年齢を尋ねた。
2．保育園や幼稚園に通っていた経験について、「いずれにも通っていない」「保育園のみ」「幼稚園のみ」「両方に通った」の4つの選択肢から回答を求めた。
3．2で保育園、幼稚園いずれかまたは両方に通っていたと回答した者に対して、男性保育士がいたかどうかを尋ねた。なお、調査では、「保育者」に比べてより一般的な「保育士」という言葉を用いた。以下、方法と結果においては「保育士」と記述する。
4．男性保育士の印象について、「男性保育士と聞いて、あなたが思い浮かべるイメージを、以下にご自由にお書きください」と教示し、自由記述で回答を求めた。
5．男性保育士に対する印象について、「好ましくない」から「好ましい」の5段階で回答を求めた。
6．男性保育士が女児の着替えをすることに賛成か反対かについて、「賛成」、「反対」の2択で回答を求めた。
7．6の賛否の理由について自由記述で回答を求めた。
8．子育てに関して、性別による役割分担をどの程度必要と考えているかを測定するために、「母性愛」信奉傾向尺度（江上, 2005）を使用した。この尺度は、前述の通り2因子であることが確かめられており、「女性による子育ての正当化」は7項目、「母親の愛情の神聖視」は5項目からなっている（江上, 2017）。江上（2005, 2017）と同様、5件法で回答を求めた（本研究におけるα係数は順に.841、.813）。
9．男性の仕事や家庭役割への態度（以下、男性役割態度）を測定するために、伝統的な男性役割態度尺度（渡邊, 2017b）の「社会的地位の高さ」と、新しい男性役割尺度（渡邊, 2017a）の「家庭への参加」を用いた。いずれも4項目からなり、7件法で回答を求めた（本研究におけるα係数は順に.804、.893）。

結　果

記述統計

保育園や幼稚園に通っていた経験について、いずれにも通っていない者が1名（0.4％）、保育園に通っていた者が51名（21.7％）、幼稚園に通っていた者が167名（71.1％）、どちらにも通っていた者が14名（6.0％）、不明が2名（0.9％）であった。いずれの園にも通っていない者および不明の者を除き、通っていた保育園または幼稚園に男性保育士がいた者は92名（39.7％）、いなかった者は136名（58.6％）で、不明が4名（1.7％）であった。男性保育士の印象は$M = 4.138$（$SD = 0.891$）であり、男性保育士が女児の着替えをすることに賛成の者は172名（73.2％）、反対の者は56名（23.8％）、不明7名（3.0％）であった。

既存尺度は先行研究に基づいて得点化した。「母性愛」信奉傾向尺度のうち、「女性による子育ての正当化」は$M = 17.943$（$SD = 18.000$）、「母親の愛情の神聖視」は$M = 15.734$（$SD = 16.000$）であった。男性役割態度のうち、「社会的地位の高さ」は$M = 4.310$（$SD = 1.249$）、「家庭への参加」は$M = 2.812$（$SD = 1.069$）であった。各尺度間には有意な正の相関がみられた（$r = .149 - .565$）。男性保育士の印象と各尺度間には有意な関連はみられなかった。

男性保育士の印象

男性保育士の印象について、社会心理学を専門とする大学院生2名とともに、自由記述の分類を行った。分類はKJ法を援用し、3名の合議によって行った。1人の回答者が複数の印象を記述していた場合には、各記述をそれぞれ分類した。全体では400件の記述がみられ、7カテゴリに分類された（Table 1）。

各カテゴリと属性の関連の検討を行うために、性別、通った園の種類（保育園、幼稚園）、男性保育士の有無、女児の着替えへの賛否それぞれによるχ^2検定を行った。回答が不明の者は分析から除いた。また、保育園、幼稚園どちらにも通った経験がある者の記述については、どちらも記述があるものとしてカウントした。その結果、男性保育士の有無で有意な連関がみられた（$\chi^2(6) = 13.551$, $p = .035$）。残差分析の結果、「遊んでくれる・力がある」カテゴリは男性保育士がいた園に通っていた者の記述が多く、「よくない・弱い」カテゴリは男性保育士がいない園に通っていた者の記述が多かった。また、女児の着替えへの賛否でも有意な連関がみられた（$\chi^2(6) = 15.689$, $p = .016$）。残差分析の結果、「よくない・弱い」カテゴリは反対の者の記述が多かった。性別（$\chi^2(6) = 12.510$, $p = .052$）、園の種類（$\chi^2(6) = 8.063$, $p = .234$）には有意な連関はみられなかった。

男性保育士の印象の規定因

男性保育士の印象に影響する要因を検討するために、性別と男性保育士の有無、「母性愛」信奉傾向尺度の「女性による子育ての正当化」と「母親の愛情の神聖視」、男性役割態度の「社会的地位の高さ」と「家庭への参加」を説明変数とし、男性保育士の印象を基準変数とする重回帰分析（強制投入法）を行った。なお、性別は男性を1、

Table 1　男性保育士の印象に関する記述の分類結果

カテゴリ	記述例	件数	性別		園の種類		男性保育士		賛否	
			男性	女性	保育園	幼稚園	あり	なし	賛成	反対
よい・やさしい・家庭的	やさしそう、家庭的な男性	126	68	58	32	98	47	78	89	36
遊んでくれる・力がある	外で遊んでくれる	93	30	62	24	73	47	44	64	27
明るい・人気	子どもたちから人気がある	67	34	33	27	43	31	34	50	16
珍しい	数が少ない	41	15	25	10	30	12	27	32	7
女性と変わらないが偏見がある	女性保育士と何ら変わらない	39	18	21	10	30	14	25	32	7
よくない・弱い	女性よりも細やかな気配りができなさそう	26	14	12	4	23	5	21	10	13
その他	女性とは違った視点で物事を考えられそう	8	3	5	3	5	4	4	4	4
	計	400	182	216	110	302	160	233	281	110

女性を2として投入し、不明は除いた。また、男性保育士の有無は、保育園、幼稚園のいずれかまたは両方に通っていた者で、男性保育士がいた者を2とし、それ以外を1として投入した。その結果、男性保育士の有無（$\beta = .181, p = .007$）と「母親の愛情の神聖視」（$\beta = .228, p = .007$）において正の偏回帰係数がみられ、「女性による子育ての正当化」（$\beta = -.171, p = .041$）において負の偏回帰係数がみられた（$R^2 = .093, p = .002$）。性別（$\beta = .127, p = .072$）、「社会的地位の高さ」（$\beta = -.037, p = .633$）、「家庭への参加」（$\beta = .060, p = .397$）は有意ではなかった。

男性保育士の女児の着替えに対する賛否の規定因

男性保育士が女児を着替えさせることに対する賛否に影響する要因を検討するために、性別と男性保育士の有無、「女性による子育ての正当化」、「母親の愛情の神聖視」、「社会的地位の高さ」、「家庭への参加」、男性保育士の印象を説明変数とし、男性保育士の女児の着替えに対する賛否を基準変数とするロジスティック回帰分析（強制投入法）を行った。その結果、男性保育士の印象のオッズ比（1.448, $p = .046$）が有意であったが、ほかの変数のオッズ比（性別1.357（$p = .405$）、男性保育士の有無1.226（$p = .550$）、「女性による子育ての正当化」.974（$p = .479$）、「母親の愛情の神聖視」.949（$p = .312$）、「社会的地位の高さ」1.374（$p = .067$）、「家庭への参加」1.026（$p = .884$））は有意ではなかった（$R^2 = .046, p = .124$）。

男性保育士の女児の着替えに対する賛否の理由

男性保育士が女児を着替えさせることに対する賛否の理由について、男性保育士の印象と同様の方法で自由記述の分類を行った。全体で297件の記述がみられ、8カテゴリに分類された（Table2）。

各カテゴリと属性、女児の着替えへの賛否の関連の検討を行うために、性別、通った園の種類（保育園、幼稚園）、男性保育士の有無、女児の着替えへの賛否それぞれによるχ^2検定を行った。回答が不明の者は分析から除いた。また、保育園、幼稚園どちらにも通った経験がある者の記述については、どちらも記述があるものとしてカウントした。その結果、男性保育士の有無で有意な連関がみられた（$\chi^2(7) = 14.299, p = .046$）。残差分析の結果、「小さい・当事者次第」カテゴリは男性保育士がいた園に通っていた者の記述が多かった。また、女児の着替えへの賛否でも有意な連関がみられた（$\chi^2(7) = 177.531, p = .000$）。残差分析の結果、「差別・平等重視・問題ない」、「プロ・信頼できる」カテゴリは賛成の者の記述が多く、「親や子どもが不快・クレーム対策」、「犯罪の可能性」、「性別で分担すべき」カテゴリは反対の者の記述が多かった。性別（$\chi^2(7) = 14.074, p = .050$）、園の種類（$\chi^2(7) = 8.696, p = .275$）には有意な連関はみられなかった。

Table 2　女児の着替えの賛否の理由に関する記述の分類結果

カテゴリ	記述例	件数	性別		園の種類		男性保育士		賛否	
			男性	女性	保育園	幼稚園	あり	なし	賛成	反対
差別・平等重視・問題ない	男女差別に値する，普通のこと	120	47	73	48	83	46	72	105	12
プロ・信頼できる	子どもを預かる上でプロであるはず	64	28	36	16	51	25	38	64	0
親や子どもが不快・クレーム対策	トラブル回避のためにも避けた方がよい	42	26	16	9	33	15	27	6	36
人材不足・効率重視	禁止すると業務に支障をきたす	23	16	7	6	18	9	12	19	3
小さい・当事者次第	児童の年齢が低い、本人が拒まない限りよい	18	7	10	3	14	14	3	16	2
犯罪の可能性	幼い女の子に変なことをする人がいる	14	4	10	3	12	6	8	1	13
性別で分担すべき	異性の子供の着替えをすることに抵抗がある	11	5	6	5	7	3	8	0	10
その他	子ども相手に男女を区別すること自体気分が悪い	5	3	2	1	4	3	2	3	2
	計	297	136	160	91	222	121	170	214	78

男性保育士の印象と女児の着替えの賛否の理由に関する自由記述の関連

自由記述で得られた男性保育士の印象のカテゴリと女児の着替えをすることへの賛否の理由のカテゴリとの関連を検討するために、各カテゴリに該当する記述がある場合を1、ない場合を0として数値化し、「その他」カテゴリを除いて数量化理論第Ⅲ類を用いた分析を行った。固有値は1軸が.454、2軸が.435であった。1軸と2軸のカテゴリスコアを用いてクラスタ分析（Ward法）を行ったところ、3クラスタが抽出された（Figure 1）。第1は、「よくない・弱い」、「性別で分担すべき」、「親や子どもが不快・クレーム対策」、「犯罪の可能性」でまとまるクラスタであった。第2は、「よい・やさしい・家庭的」、「明るい・人気」、「遊んでくれる・力がある」、「小さい・当事者次第」、「人材不足・効率重視」、「プロ・信頼できる」でまとまるクラスタであった。第3は、

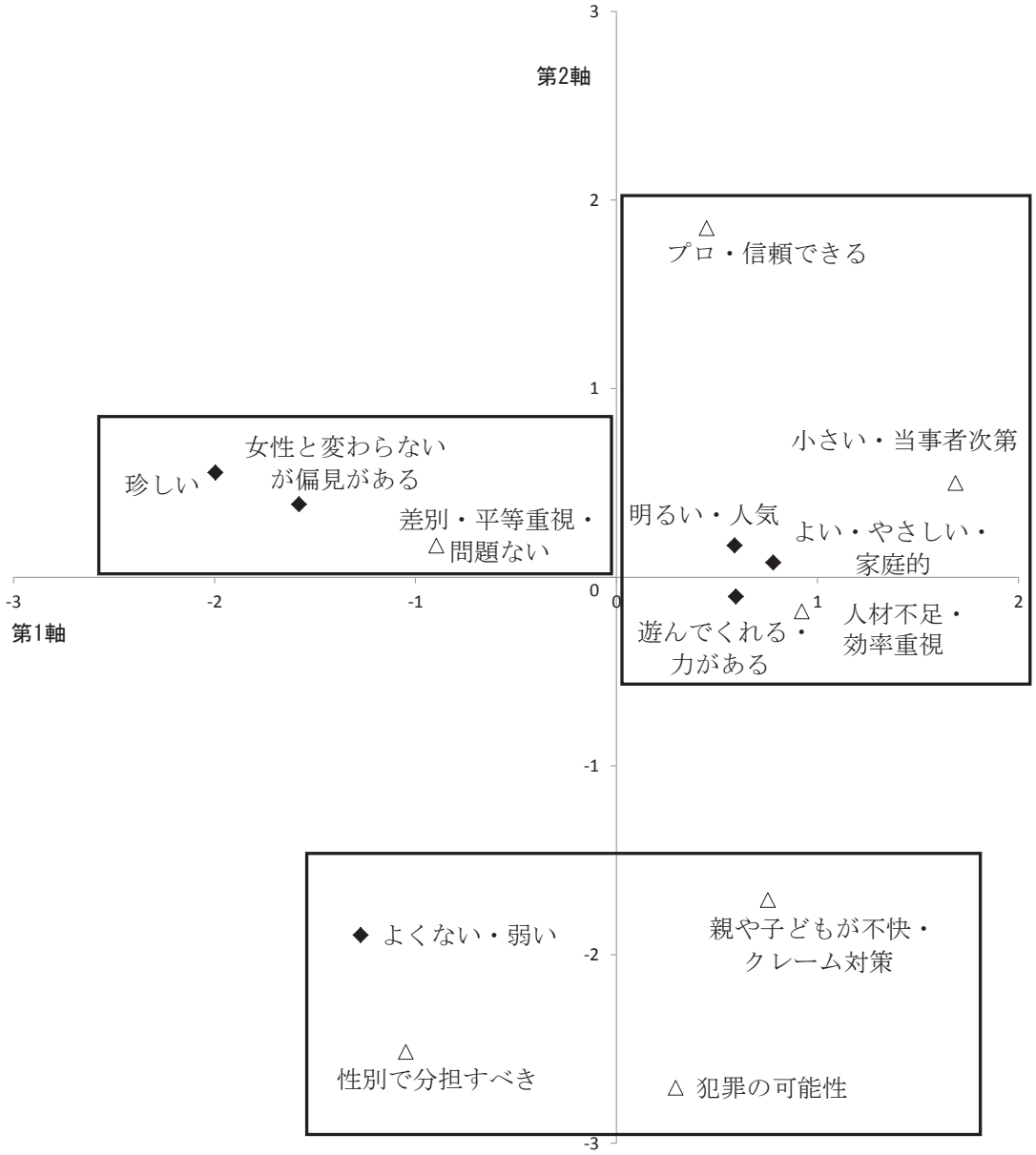

Figure 1　男性保育士の印象と女児の着替えの賛否の理由のカテゴリスコアのプロット図

◆男性保育士の印象

△女児の着替えの賛否の理由

注）囲み線はクラスタを表す。

「女性と変わらないが偏見がある」、「珍しい」、「差別・平等重視・問題ない」でまとまるクラスタであった。

数量化理論第Ⅲ類により得られた1軸と2軸のサンプルスコアと「女性による子育ての正当化」、「母親の愛情の神聖視」、「社会的地位の高さ」、「家庭への参加」、男性保育士の印象との相関係数を算出した。その結果、1軸と「女性による子育ての正当化」($r(212) = .182, p = .008$)、男性保育士の印象($r(216) = .210, p = .002$)の間に正の相関係数がみられた。そのほかの尺度には有意な相関はみられなかった。また、1軸と2軸のサンプルスコアを用いて、保育園に通った経験の有無、幼稚園に通った経験の有無、男性保育士の有無、女児の着替えの賛否によるt検定をそれぞれ行った。その結果、男性保育士の有無は1軸において差がみられ($t(214) = 2.589, p = .010$)、男性保育士ありが正の方向、男性保育士なしが負の方向であった。女児の着替えの賛否は2軸において差がみられ($t(212) = 15.110, p = .000$)、「賛成」が正の方向、「反対」が負の方向であった。それ以外の属性には有意な差はみられなかった。

考　察

男性保育者の印象と女児の着替えに対する賛否の規定因

男性保育者の印象と男性保育者が女児の着替えをすることに対する賛否の分析の結果、男性保育者がいた園に通っていた者や「母親の愛情の神聖視」が高い者ほど、男性保育者に対する印象はよく、女児の着替えをすることへの賛成につながっていた。一方、「女性による子育ての正当化」が高い者ほど、男性保育者に対する印象は悪く、女児の着替えをすることへの反対につながっていた。男性保育者の有無の結果は、菊池(2002)や齋藤(2003)を支持するものであり、男性保育者との接触経験により女性が多数を占める「ピンクカラー・ジョブ」(矢原, 2007)に携わる男性を特異なものとして捉えなくなり、職務を性別で判断しなくなると推察される。

「母性愛」信奉傾向のうち、性による役割の振り分けを意味する「女性による子育ての正当化」が、男性保育者の否定的な印象につながっていたのは、中田(2003)や青野(2009)の指摘と整合する。ケアは、気づかいや共感といった女性的なイメージと結びつけられることが多く(矢原, 2007)、「女性による子育ての正当化」が高い者ほど、保育というケアが女性に適したものであり、男性には適さないと考えやすく、男性保育者の否定的な印象、そして女児の着替えに対する否定につながったと考えられる。一方で、母親の愛情による子育てを重要視する「母親の愛情の神聖視」が高い者は、男性保育者に対して肯定的な印象を持っていた。「母親の愛情の神聖視」は、「子どものためなら、どんなことでもするつもりでいるのが母親である」「母親の愛情はもちろん、子どもを自分よりも大切に想う気持ちや行動こそが、子どもには絶対に必要なものである」といった項目で測定されていた。ケアには他者のニーズをくみ取りタイミングを考慮するなどして、関係を維持するよう調整するマネジメントの側面がある(平山, 2017)。このことを踏まえれば、上記の項目で測定されていたのは、子どものニーズに何としても応えようとするマネジメント行動であると解釈できる。したがって、母親という存在や母親の愛情を絶対視したというよりも、従来母親が行うとされてきたようなマネジメント行動に対して肯定的な者が、男性保育者にもそうした行動は可能であると考え、好印象を持っているのではないかと推察される。

なお、齋藤(2003)では、父親の方が性差を意識していたが、本研究では性別の影響はみられなかった。この理由としては、男性保育者の有無や「母性愛」信奉傾向の2因子の影響により相殺された可能性が考えられる。また、本研究の対象が大学生であり、現在子育てに関わっていないため、性別による違いがみられなかった可能性も考えられる。加えて、本研究では男性役割態度の影響がみられなかった。この結果から、男性保育者の印象や職務の捉え方に対しては、男性がどうあるべきかという考え方よりも、女性が子育てを行うことや子どもに愛情をかけることをどのように考えているかが影響している可能性が示唆される。ただし、これらの点は推察にとどまっており、大学生以外にも調査を行うことで改めて検証する必要がある。

男性保育者の印象と女児の着替えに対する賛否の理由のタイプ

自由記述を分類し、男性保育者の印象は7カテゴリ、男性保育者が女児の着替えをすることに対する賛成の理由は8カテゴリにわけられた。このカテゴリを基に分析したところ、男性保育者の印象と女児の着替えの賛否の理由は大きく3クラスタにわかれた。これらのまとまりから、男性保育者に対しては以下3タイプの意見が推察される。第1に、よくない印象があり、女児の着替えに対しては、親や子どもが不快に思ったりクレームがあり、犯罪の可能性もあるので性別で役割を分担すべきという意見である。第2に、家庭的で明るく、遊んでくれるといった印象があり、効率的な職務遂行のためにも、子どもが嫌がっていなければ問題なく、プロであり信頼できるという意見である。第3に、珍しい存在で、女性保育者と変わらないが偏見にさらされやすいという印象があり、男性保育者に対する差別的な視線に異議を唱え、平等を重視する意見である。

これらの3タイプの付置をみると、1軸では正の方向に具体的でポジティブな印象がみられ、負の方向に抽象的でニュートラルもしくはネガティブな印象がみられた。2軸では正の方向に女児の着替えに関してポジティブな意見がみられ、負の方向に女児の着替えに関してネガティブな意見がみられた。したがって1軸は正の方向に行くほどポジティブな印象の軸、2軸は賛成―反対の意見の軸と解釈される。

これらの3タイプの付置と属性や尺度との関連を分析したところ、1軸において印象との正の相関がみられ、男性保育者の有無でも差がみられた。これらの結果は前項で考察した印象の規定因の分析と一致しており、男性保育者がいた園に通っていた者ほど、男性保育者に対してポジティブな印象を抱きやすいと考えられる。なお、「女性による子育ての正当化」も同じく1軸と正の相関がみられた。規定因の分析も踏まえると、「女性による子育ての正当化」に肯定的な者は、家庭的で明るいといったポジティブな印象を抱いているわけではなく、むしろ1軸の負の方向に付置されたような、男性保育者を特別視し差別的な視線を向けることに異議を唱えるような意見を持ちにくいと解釈される。

2軸においては女児の着替えの賛否による差がみられた。特に2軸の負の方向には、矢原（2007）や山田（1992）が指摘する、ケアを行う男性のセクシュアリティを問題視した意見が付置されている。着替えの補助には身体接触を伴うことから、性別で役割を分担するべき、犯罪の可能性があるなどとする反対の意見と関連したと考えられる。逆に正の方向には、男性保育者をプロとして信頼できるとする意見が付置された。これまでケアには女性的なイメージが結びつき、社会経済的評価も低いと考えられやすかった（矢原，2007）。しかし、近年平等的な意識が高まり（内閣府，2019）、男性の育児参加が社会的に推進されており（厚生労働省雇用環境・均等局職業生活両立課，2018）、子どものケアを男性が行うことは当たり前と捉えられつつある。また、賛成の意見を持つ者は、前項で考察したように子どものニーズをくみ取り関係を調整するマネジメント（平山，2017）に肯定的なことが窺える。よって、子どものケアはマネジメント行動であり、男性保育者でもプロであればできるし信頼できるので、女児の着替えも任せられると考え、賛成の意見と関連したと推察される。

本研究の意義と今後の展望

本研究により、男性保育者との接触経験や「母親の愛情」の背後にあるマネジメント行動への肯定感、性別による役割分担に否定的なことが、男性保育者の印象を高め、男性保育者が女児の着替えを行うことに対する賛成に結びつくことが明らかになった。また、賛成の理由としては仕事であり信頼できるという考えがあり、反対の理由としてはセクシュアリティの問題があることが明らかになった。これらの結果から、本研究には2点の意義があると考えられる。第1に、男性保育者との接触機会を設けることで、男性保育者の印象が高まり、性別に基づかない保育への賛同を増やすことができる可能性である。園に初めて男性保育者を採用したり、男性保育者がいる園に子どもを預ける際には、保護者や子どもの不安を軽減するために、男性保育者が働いている現場を見学することなどが有効であると考えられる。また教育現場では、男性保育者の講演機会を設けることで、「ピンクカラー・ジョブ」に付随する女性的なイ

メージ（矢原, 2007）を払拭し、将来的に子どもを預ける際の男性保育者に対する忌避感を軽減できる可能性が考えられる。第2に、「母親の愛情の神聖視」の影響の考察を踏まえると、従来母親が行うとされてきたようなマネジメント行動を、男性もできるという意識を醸成することが、男性のケアを促進するために重要ではないかということである。ケアに伴う様々な行動は、母親あるいは女性だから行えるのではなく、他者のニーズをくみ取り関係を維持しようとマネジメント（平山, 2017）してきた結果であり、そうしたマネジメントの仕方を学びケアの場で実践できるよう、男性に対する教育的支援を充実させる必要がある。

最後に今後の課題として、3点挙げられる。第1に、本研究は現在子どもを育てていないであろう大学生を対象とした。今後は、男性保育者がいる園に子どもを預ける保護者や一緒に働く女性保育者、当事者である男性保育者を対象とした調査を行い、身体接触を伴う職務をどのように捉え、実際にどのように行っているのかを検討する必要がある。第2に、本研究の対象者には、幼稚園に通った者が7割を占めており、保育園に通った者の割合が少なかった。男性保育者の印象や女児の着替えへの賛否の自由記述に大きな違いはみられなかったが、通った園による違いを改めて検証する必要がある。第3に、「母親の愛情の神聖視」の影響をマネジメント行動から考察したが推察にとどまっている。今後は、保育にかかわるマネジメント行動に焦点化した詳細な検討が望まれる。本研究は、これらを検討するための萌芽的研究として位置づけられる。

引用文献

Abel, E. K. (1990). Informal Care for the Disabled Elderly: A Critique of Recent Literature. *Research on Aging*, *12*, 139–157

青野篤子（2009）．男性保育者の保育職に対する意識――ジェンダー・フリー保育の観点から――　福山大学人間文化学部紀要，*9*，1-29.

土肥伊都子・廣川空美（2004）．共同性・作動性尺度（CAS）の作成と構成概念妥当性の検討――ジェンダー・パーソナリティの肯否両側面の測定――　心理学研究，*75*，420-427.

江上園子（2005）．幼児を持つ母親の「母性愛」信奉傾向と養育状況における感情制御不全 発達心理学研究，*16*，122-134.

江上園子（2017）．キャリア志向の女性における出産前後の「母性愛」信奉傾向の変容 発達心理学研究，*28*，154-164.

平山　亮（2017）．介護する息子たち――男性性の死角とケアのジェンダー分析――　勁草書房

Hochschild, A.R. (1982). *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*. Berkeley: University of California Press.
石川　准・室伏亜希（訳）（2000）．管理される心――感情が商品になるとき――　世界思想社

井上清子・石川洋子（2008）．男性保育者に求められる役割と問題 生活科学研究，*30*，207-214.

伊藤裕子（1978）．性役割の認知に関する研究 教育心理学研究，*26*，1-11.

菊池政隆（2002）．男性保育者に対する態度――女性保育者・保護者・学生からみて――　保育学研究，*40*，17-23.

小林　真・竹田　誠（2008）．幼児の母親は男性保育者にどのようなイメージを抱いているか――育児の相談相手としての可能性を探る――　富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究，*2*，17-22.

厚生労働省（2017）．保育士の平均賃金 Retrieved from https://jsite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/var/rev0/0119/7609/ho3.pdf（2021年1月4日）

厚生労働省雇用環境・均等局職業生活両立課（2018）．「男性の育児休業取得促進事業（イクメンプロジェクト）」の取組について 共同参画，2018年6月号，2-5.

毎日新聞（2017）．Listening＜千葉市＞男性保育士の女児着替え，賛否 Retrieved from https://mainichi.jp/articles/20170131/org/00m/010/009000c（2021年1月4日）

Mason, J. (1996). Gender, care and sensibility in family and kin relationship. In Holland, J. & Adkins, L. (Eds.), *Sex, Sensibility and the Gendered Body* (pp.15-36). London: Macmillan Press LTD.

内閣府（2019）．男女共同参画社会に関する世論

調査 調査結果の概要 Retrieved from https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/2-2.html（2021年1月4日）

中田奈月（2003）．男性保育士による低年齢児保育の困難 保育士養成研究，*21*，19-27.

齋藤政子（2003）．保育園保護者は男性保育者についてどう捉えているか 日本保育学会大会発表論文集，*56*，858-859.

鈴木淳子（1994）．平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）の作成 心理学研究，*65*，34-41.

渡邊　寛（2017a）．新しい男性役割尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 心理学研究，*88*，251-259.

渡邊　寛（2017b）．伝統的な男性役割態度尺度の作成と信頼性・妥当性の検証 心理学研究，*88*，488-498.

渡邊　寛（2017c）．多様化する男性役割の構造――伝統的な男性役割と新しい男性役割を特徴づける4領域の提示―― 心理学評論，*60*，117-139.

矢原隆行（2007）．男性ピンクカラーの社会学――ケア労働の男性化の諸相―― 社会学評論，*58*，343-356.

山田昌弘（1992）．福祉とジェンダー――その構造と意味―― 家族研究年報，*17*，2-14.

矢野円郁（2020）．男性保育士に対する態度とジェンダー・ステレオタイプとの関係――保育士の専門性認識を高めるために 三田哲學會，*144*，219-238.

わたなべ　ゆたか（昭和女子大学心理学科）